

日時：平成 19 年 10 月 1 日（月）14:00-15:30

場所：合同庁舎 5 号館 共用第 9 会議室
（18 階国会議事堂側 1808 号室）

【議題】

- 議題 1 国際シンポジウムについて
- 議題 2 身近な野生生物の観察事業について
- 議題 3 化学物質の内分泌かく乱作用に関するホームページについて
- 議題 4 その他

【事務局・安部】 それでは時間となりましたので、会議のほう、始めさせていただければと思います。

ただ今から、平成 19 年度第 1 回 ExTEND2005 リスクコミュニケーション推進検討部会を開催いたします。私、事務局を承っております関係情報普及センターと申します。よろしく願いいたします。

まず環境省環境安全課長よりごあいさつを申し上げます。

【環境省・木村課長】 皆さま、ご苦労さまでございます。環境省の環境安全課長を務めております木村でございます。

ただ今、事務局のほうよりご案内ありましたように、第 1 回目の平成 19 年度 ExTEND2005 リスクコミュニケーション推進検討部会を開催させていただきたいと思っております。この ExTEND2005、平成 17 年からスタートしてございますので、ちょうど今年が 3 年目ということになります。

また、何よりも、この問題については、内分泌かく乱作用の問題が我が国において勃発したのが 1998 年ということになりますから、ちょうど今年が 10 年目に当たっているわけでございます。そういう意味でも、私ども環境省としても、この ExTEND2005 になって、この事業、一定の定着が図られてきたかなというふうに認識しておるわけでございます。ここへ来て、ひとつ、10 年目の一区切りということもございまして、後ほどまた詳しく担当のほうから説明もあろうかと思っておりますけれども、国際シンポジウムも、その 1 つの節目にさせていただきたいというふうに考えておりまして、そういう考えからの企画のご提案をさせていただきたいと思っております。

また、2 点目には、身近な野生生物観察についてでございます。これは非常にフィールドを重視するというのが、この ExTEND2005 の考え方でございまして。これにつきましても、従来、子どもだけの観察から、今回は、より大人の方々にも広く参加していただけるような、そのような仕組みづくりをさせていただきたいと考えており、この辺りについて、またお話を申し上げていきたいと思っております。

そして、何よりも、この内分泌かく乱作用というのは、まだまだ研究段階の部分も多いわけですので、ホームページ等々を使いながら、その正確な情報を広く国民の一般の方々に、正確にしかも分かりやすく伝えていくということが、われわれの役目だろうと考えておりまして、このような点についても努力していきたいと思っております。どう

か本日は、この3点について、委員の皆さま方から、きたんのないご意見を賜れば、誠に幸いであることをお願い申し上げまして、まずは会議冒頭のごあいさつに代えさせていただきます。本日は、何とぞよろしくお願い申し上げます。

【事務局・安部】 それでは、今、お手元にお配りしております資料の確認をさせていただきます。1つは、コピーでとじたもの1部。あと、「平成18年度ExTEND2005に基づく身近な野生生物の観察業務」というものが、表紙に絵のないものと、同じく「観察報告書」ということで絵があるもの、それぞれ1部ずつお配りしております。

コピーでご準備しました、こちらの資料、1つずつ確認させていただきます。まず最初のページのほうなんですけれども、議事次第がございます。めくっていただきますと、「資料1」、こちらのほうが1枚。次が「資料2」、こちらのほうが、2ページで1枚となっております。「資料3」、こちらのほうが1ページ1枚となっております。次に、「資料4-1」というのが、3枚の6ページというふうになっております。「資料4-2」、こちらのほうが2ページの1枚となっております。続いて「資料5-1」、こちらのほうが1枚となっております。「資料5-2」、こちらが2ページの1枚となっております。「資料5-3」、同じく2ページで1枚となっております。「資料5-4」、これが1ページ1枚となっております。その後、「別添」というのが2ページで1枚。「別添2」が1ページの1枚となっております。次に「資料5-5」、こちらが1ページの1枚となっております。続きまして「資料6-1」、こちらが3枚の6ページとなっております。次に「資料6-2」、こちらが2ページの1枚ということで、資料のほう準備させていただいております。特に乱丁とか抜けはございませんでしょうか。もし不備な点があったら、お申し出ください。

では、こちらの検討会のほうの「資料1」のとおり、18年度からの、本検討会は継続となっておりますので、委員の方のご紹介は省略させていただきます。それでは北野座長、よろしくお願いいたします。

【北野座長】 はい。分かりました。それでは、ただ今から平成19年度第1回ExTEND2005リスクコミュニケーション推進検討部会を開催させていただきます。

確か前回は、今年の8月でしたね。覚えておりますか、うちわを使いながら、極めて環境に配慮した委員会だったと思っておりますけど、(笑)ありました。

その後、10月に、このリスクコミュニケーションの親委員会で、正式な名称は、「平成18年度第2回ExTEND2005化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会」というのも開かれています。

従いまして、この2点について、レビューの意味も含めて、事務局から、「資料2」と「資料3」に基づきまして、まず最初にご説明いただこうと思っております。高岡さんですか。

【環境省・長谷川補佐】 私のほうから説明させていただきます。

【北野座長】 はい。じゃあお願いします。

【環境省・長谷川補佐】 まず「資料2」をご覧ください。平成18年8月21日に開催されました「平成18年度第1回リスクコミュニケーション推進検討会議事要旨」でございます。出席者の先生方は、ローマ数字 番のとおりでございます。番、議題でございますが、1.化学物質の内分泌かく乱作用に関するホームページについて、2.国際シンポ

ジウムについて、3．ExTEND 野生生物観察隊について、4．その他となっております。

次に議事要旨を簡単にご説明いたします。(1)、まずホームページに関しまして、事務局から説明・報告いたしましたところ、先生方から次の意見をいただいております。まず、リンク先に関するご意見をいただきましたので、これに対して事務局側から、リンク先の明確化と充実を図ることとなっております。

また、次の・でございますが、再閲覧の興味を持続させるために、内分泌かく乱問題に関するニュース的なものを載せてはどうかのご意見をいただいておりますので、こちらのほうは採用することとなっております。

(2) 第8回国際シンポジウムにつきまして説明・報告、第9回国際シンポジウムの計画について報告を行いました。先生方から、リスク管理の専門家も入れるべきではないかのご意見をいただいております。

次のページになります。また、次の・でございます。テーマは非常に包括的で、対象を何にするのかというご質問をいただきましたので、これに関しまして、環境省から、人への健康リスクと生態系リスクの両方を対象としたいとお答えしております。

(3) 平成 18 年度身近な野生生物の観察事業につきまして報告を行いました。先生方からは、この事業こそ長期的にやるべきであるのご意見をいただいております。

(4) でございます。事務局から ExTEND2005 の中長期的な取組について説明を行いました。ご意見といたしましては、内分泌かく乱化学物質だけを限定したり、特殊なものとして考えたりするのではなくて、化学物質全体の管理の中で一環としてとらえていくべきではないかのご意見をいただいております。

また、次の・でございますが、報道機関も内分泌かく乱作用を特殊なものとしてとらえて、批判的な考え方となっているのではないかと、ご意見をいただいておりますので、これに関しまして環境省として発信の機会をつくっていききたいとお答えしております。

また、次の・でございますが、今後、報道機関とのお付き合いのあり方についても問われているというご意見をいただいております。

次は「資料3」でございます。平成 18 年 10 月 31 日に開催いたしました平成 18 年度第 2 回 ExTEND2005 化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会議事要旨でございます。出席の先生方は 番のとおりでございます。

番の議題でございますが、(1) 作用・影響評価結果について、(2) 基盤的研究の推進について、(3) 野生生物の生物学的知見収集について、(4) 国際協力事業について、(5) リスクコミュニケーションの推進について、(6) その他となっております。

次の議事要旨でございますが、(5) のリスクコミュニケーションの推進を中心に取り上げております。事務局側から、次の の3点、ご説明を差し上げました。平成 18 年度リスクコミュニケーション推進検討会議事要旨について、化学物質の内分泌かく乱作用に関するホームページについて、3つ目の でございますが、釧路で開催いたしました平成 18 年度国際シンポジウムについてでございます。

委員の先生方からいただいた意見でございます。まず、国際シンポジウムの開催地につきましては、もう少し大勢の方が参加しやすい所で開催すべきではなかったかというご意見でございます。また、環境ホルモン学会と合同開催も含めたスケジュールを組むべきではないかというご意見でございます。

次に、コミュニケーションは、情報を出す側と受け止める側の双方向でなければ成り立たない。釧路でやるのは、コミュニケーションの観点から問題があったのではないかと、ご意見をいただいています。

最後の・でございますが、国際シンポジウムのパネル展示においては、さまざまな環境NGO、あるいは野生生物のネットワークグループの方々も入ってこれるような仕組みにすべきであるというご意見をいただいています。以上でございます。

【北野座長】 ありがとうございます。前回の、この検討委員会とか、親委員会の議事についてご説明いただきました。今、説明いただいた内容について、ご質問なりご意見がありましたら、お伺いしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいですか。この後、これを踏まえた議論がされると思いますので、それじゃあ、次の議題に移らせていただきます。

1つ目の議題は、国際シンポジウムについてですね。それでは、「資料4」に基づいて、ご説明をお願いします。

【コングレ・野村】 では「資料4」についてご説明させていただきます。昨年、釧路で行われました会議の運営を担当させていただきました、株式会社コングレ、野村と申します。今年度も企画コンペにおいてご用命賜ることができましたので、どうぞよろしく願いいたします。

では、昨年のシンポジウムの説明をさせていただきます。昨年、2006年11月12日から14日まで、化学物質の環境リスクに関する国際シンポジウムが、北海道釧路市で行われました。この釧路の会場ですが、釧路市観光国際交流センターというところで行われ、こちらは、1993年にラムサール条約の第5回締約国会議、こちらに合わせて建設された場所でございます。このため、スタディービジット等も、こちらの釧路の湿原に行かれたという経緯がございます。

3日間の構成で、初日はパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションに先立ちまして、北川知克環境大臣政務官からごあいさつを賜り、また、北海道知事、高橋はるみ様の代読ということで、メッセージを釧路市の支庁長からいただきました。司会は、フリージャーナリストの池上様、タレントの三井ゆり様、パネリストは4名様でございます。こちらのお写真に出ております青山様、蒲生様、原田様、北窓様でございます。また、一般を代表する質問者として、4名様。有田様、嵩様、福井様、新庄様においでいただきました。

2ページ目です。「化学物質にはどんなリスクがあるのか」、「化学物質のリスクの程度はどのように評価しているのか」を話し合い、「化学物質の環境リスクにどう向き合っていくべきか」という提言がなされました。VTRを4つ織り交ぜてのディスカッションでございましたが、こちらはNHKエンタープライズのほうで制作をしていただいた次第でございます。

VTRを見て、最終的な主な論点ということで、3ページ目に挙げさせていただいておりますが、そもそもリスクというのは、イコール「危険」ではなく「危険性」のことである。化学物質にゼロリスクということはなく、必ず何らかのリスクがある。そのリスクは、物質の毒性の強さとはばく露量の2つの要素で変わってくるということ。

次ですが、リスク評価というのは、化学物質のリスクの大きさを知り、原因は何か、ま

た、対策はどうするべきか、リスクの管理のために行われる評価方法である。毒性の強さとはばく露量の数値データから計算されるということ。リスクを最小限にするには、リスク評価を行い、リスクの大きさを知って管理するとともに、排出量の情報開示などによって、今使っている化学物質の環境中への排出量を減らしていくことが大切。

また、それに関して市民はどうすべきかということに関しては、リスクとは何かをきちんと把握し、リスクに関する情報やリスク評価の結果が出されているかどうかなどを監視しながら、議論を深めていくことが重要であるということが語られました。

この模様は、今年3月31日にNHK教育テレビ「土曜フォーラム」でも公開されております。

2日目、3日目に関しましては国際セッション、セッションが5つに分かれて、次のテーマで行われました。セッション1、「化学物質の影響をどうとらえるか 国際的な取組」が話し合われました。セッション2、「子どもの環境リスクをどう捉えるか 大人との違い」がテーマとなりました。セッション3、「これまでに化学物質について何がわかったか 内分泌かく乱作用に関する基礎的研究の今」が話し合われました。セッション4、「化学物質のリスクをどう理解するか リスクコミュニケーションのあり方」が議論されました。セッション5、「野生生物への影響を評価するために何が必要か 科学的な野生生物観察のあり方」が語られました。

このうち、セッション1と3に関しましては、海外からそれぞれ2名様、そして3名様のスピーカーにご講演をいただきまして、同時通訳の装置も入れておりました。

各セッションは、約2時間15分ごとでございまして、お1人様40分、30分のご講演プラス質疑応答10分、セッションにより発表者が多い場合は、少し調整させていただいたという次第です。

また、各セッションにはコーディネーターの先生にお1人ずつ付いていただきまして、発表の最初にスピーカーのご説明、また最終的に10分ぐらいで、最後の取りまとめをいただいたということでございます。

関連の展示に関しましては、環境省から映像の展示、そしてパネル展示がございました。また、日本化学工業協会映像展示もございました。地元の北海道釧路市からもパネル展示をいただいております。以上簡単ではございますが、シンポジウムのご報告をしました。

【北野座長】 ありがとうございます。昨年の釧路の国際シンポジウムのご説明をいただきましたけども、有田さん、参加されて、何か追加することありますか。

【有田委員】 いえ。別に、私は単なる市民として質問しただけなので。ただ、後で放送を見た方は、何人か、知らせてなかったんですけど、偶然ご覧になっていて、分かりやすかったということでは聞いております。

【北野座長】 私も見せていただきましたけど。それじゃあ、ただ今のご説明について、何かご意見・ご質問ありますでしょうか。よろしいですか。

じゃあ「資料4-2」で、今年度の計画について、ご説明をお願いします。

【環境省・高岡係長】 「資料4-2」につきまして、ご説明させていただきます。

今年度の化学物質の環境リスクに関する国際シンポジウムの案についてでございます。こちら、第10回の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウムと第6回の小児等の環境保健に関する国際シンポジウムの共同開催となっております。毎年1回、これまで化学物

質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウムを開催してまいりましたが、先ほど申し上げましたとおり、今年で第 10 回目となりますので、10 年、節目の年ということでございまして、化学物質の内分泌かく乱作用について総括を行うということを予定しております。

日時といたしましては、本年 12 月 9 日日曜日と 10 日月曜日を予定しております。両日にわたってパネル展示を行いたいというふうに考えております。

プログラムといたしましては、9 日の午後に開会式と一般向けシンポジウムを、10 日の月曜日に国際セッションを 3 セッション執り行いたいということで、今、検討しております。

会場は、埼玉県の大宮ソニックシティで検討しております。

ページをおめくりいただきまして、プログラム案の中身でございますけれども、12 月 9 日 13 時から開会式でございまして、環境大臣からのあいさつを予定しているところでございます。13 時半からのシンポジウムでは、「化学物質の内分泌かく乱作用についての総括」ということでございまして、シンポジウムの司会を、本検討部会の座長でもございませぬ北野先生にお願いしたいと考えているところでございます。

まず、基調講演といたしまして、世界における化学物質の内分泌かく乱作用に関する取組のご紹介をいただきたいと考えておまして、WHO の取組、米国の取組、EU の取組、OECD の取組ということで、それぞれ国立医薬品食品衛生研究所の井上先生、アメリカ合衆国 EPA の Jim Kariya 氏、ドイツ環境庁の Hans Christian 氏、残留農薬研究所の青山先生にご講演をいただきたいというふうに考えております。

後半 15 時からパネルディスカッションということでございまして、パネリストの先生方にお越しいただきまして、ディスカッションをしていただきたいと考えております。自然科学研究機構の井口先生、国立医薬品食品衛生研究所の井上先生、調整中ではございますが、筑波大学の渡邊先生、また、産業界から日本化学工業協会の推薦者、市民団体の代表ということでございまして、本検討部会の委員でもいらっしゃいます主婦連合の有田さん、環境省からは課長の木村をパネリストとして検討しております。

17 時半以降はレセプションを予定しております。

翌日 10 日の月曜日でございますが、専門家セッション 3 つでございまして。そのうちの 2 つについては、「化学物質の内分泌かく乱作用に関する基礎的な研究」、残りの 1 つが、「小児環境保健に関する疫学調査について」ということでございまして、それぞれセッション・コーディネーターを 1 名置きまして、発表者は 3、4 名程度ということで調整中でございます。

セッション・コーディネーターといたしましては、1 点目、「野生生物と環境・水生生態系への影響」ということでございまして、自然科学研究機構の井口先生、セッション 2、仮題ではございますが、「In vivo/in vitro 試験系における試験研究の現況」ということで東京大学の遠山先生、セッション 3、「小児環境保健に関する疫学調査」については、東北大学の佐藤先生にお願いしたいというふう考えております。

最後に、シンポジウムの開催に当たりまして、自治体その他関係団体に協力を依頼するというところで準備をしているところでございます。大変簡単ではございますが、以上でございます。

【北野座長】 ありがとうございます。今年の12月、埼玉で行われる国際シンポジウムの大まかな計画についてご説明いただきました。こういうこともやったほうがいいんじゃないかとか、こういう観点から議論したほうがいいんじゃないかとか、その辺の、もしアドバイス・助言ございましたら、いただきたいと思っています。この後、もちろん事務局と相談しますが、何かご意見あれば、はい、村田さんどうぞ。

【村田委員】 2つありまして、1つは確認なんですけど。このシンポジウムのパネル展示は、一般のNGOの展示も受け入れるんでしょうか。

【環境省・高岡係長】 今年度は、スペースが少し狭いということもございまして、調整はいたしますが、そのようなご提案いただきましたら検討させていただきたいですけども。

【村田委員】 埼玉県は、かなり熱心なグループもありますし、もしスペースがあるなら、私どもでも化学物質をテーマとしたパネルがあるので、出展を考えたいと思っているので。

【事務局・木村課長】 できるだけ、そのとおり、前向きに検討させていただきたいと思います。

【北野座長】 そうですね。できるだけいろんな立場の方が発表する場を持ったほうがいいと思いますので、その辺またご検討お願いします。もう1点は何ですか。

【村田委員】 もう1点は、日曜日のシンポジウムですね。これは一般向けということで書いてありますが、一般でも、どのぐらいの層を対象にしているのか。(笑)ちょっと、このプログラムを見ると、かなり一般といっても、こういうテーマで書かれても、一般の人は果たして来るかなと。本当の一般の人を対象とするなら、もうちょっと、このプログラムの組み方なり工夫をしないと。

【事務局・木村課長】 そうですね。おっしゃるとおりです。今、実は、まだ大きな枠組みのところで考えているだけで、細かなところは、これからということがございます。ですから、例えば、このパネルディスカッションのことが、そこに書いてあるように、化学物質の内分泌かく乱作用について総括と書いてあるんですけど。これは、ある意味では仮題みたいなものでして。もう少し、ここに、細かく、こういうことをしてというか、副題のようなところを非常に分かりやすくして、なるべく一般の方でも、ああ、こういうものかというイメージがわくような、そういうものを考えていければなと思います。

【北野座長】 確かに時間的な制約もあるけど、取りあえず「内分泌かく乱作用とは何か」とか、その辺から入ることが必要かもしれませんね。

あと、もう1つ私、日本の取組がないのはどうかと思ったんですけど。

【事務局・木村課長】 それは、申し訳ありません。毎年基調講演で、世界はどういうふうな取組があるかというので、それを、次のパネルディスカッションの冒頭のところですね、それを踏まえて、日本の取組はどうかということ、内々には考えているということでございます。

【北野座長】 そうですか。分かりました。

【脇森委員】 10年ということ言えば、最近、話題にあんまりならなくなっているということもあるから、何がどう変わったのかということ、10年の間に、何が分かっている、何がまだ分からないのかということ、はっきり分かるようにしていただければと。ただ、口に上らなくなったということじゃなくて、その10年の間に何かがあったはずなので。

【北野座長】 その辺は、どこかで考えていただけますか。

【事務局・木村課長】 まさに、まだまだ分からない部分もあるんでしょうけれども、今の10年で何がどの程度まで分かったのかという部分を、今回の基調にして、なるべく分かりやすく調べていくのが最高なので、そういうことを心掛けていきたいと思います。

【北野座長】 そうですね。何が分かって、何が今も分からないのかというところが、分かります。その辺について、また発表していただくということで。はい。ありがとうございます。

ほかにご助言等ございましたらいただきたいんですが。

今出た意見としては、取りあえず「内分泌かく乱作用とは何か」みたいな、ちょっと基礎的な話も入れていただくということと、それから、世界は何をしているかというところを受けて、日本としては、どういうことをしているか、そして、過去10年間、何が分かって、何がまだ分からないのかという、それをクリアにした上で進めていただきたいというご提案でした。ありがとうございます。

ほかに、どうでしょう。

【青山委員】 ちょっと調べてくるの忘れちゃったんですが、この渡邊先生は、どうぞ専門なんですか。

【環境省・高岡係長】 渡邊先生は、ExTEND2005の野生生物の知見の検討会の座長をお願いしている先生です。

【青山委員】 今まで、こういうパネルディスカッションをやる時、コミュニケーションの専門家の方が入っているケースが多かったのかなという気がして。吉川先生も、確か何年前に入られたんじゃないですか。

【北野座長】 パネルは、やりました？

【吉川委員】 だいぶ前ですね。

【青山委員】 名古屋か何かでしたっけ。

【北野座長】 内山先生を中心に、リスクコミュニケーションというセッションを設けましたね。あれ、一般講演の中では、やってないと、私、思ったんですけど。リスクコミュニケーションというセッションをつくって、内山先生、座長されながら、吉川先生も。

【内山委員】 2回やったと思います。

【北野座長】 そうでしたね。

【内山委員】 2年間。

【北野座長】 沖縄でしたっけ。

【内山委員】 ええ。沖縄でやりました。

【北野座長】 そうでしたね、確か。

【有田委員】 名古屋からリスクコミュニケーションが始まったので、そこで吉川先生が。

【北野座長】 今回は、技術的な進歩等について中心にやっていくということというふうに、私は理解したんですけども。

【事務局・木村課長】 一応、事務局の考え方としては、10年、先ほど申しましたように、一区切りということになりましたので、その情報、混乱しているのが、どうあるべきかというよりは、今まさに何がどの程度まで分かったのか、そして、それを前提に、今、考えているというところに、今回の重点を置きたいなというふうには思っているところでございまして。

もちろん、リスコミの話を除くということではなくて、その中の、いろいろの中に、リスコミというのが、当然入ってくるというこのプログラムを想定しておるところでございますので、その辺のところ、今、このメンバー等も考えております。

【北野座長】 有田さん、どうぞ。

【有田委員】 パネルディスカッションのファシリテーターとかコーディネーターは北野先生、そこもされるということなんですか。そうですね。上に司会って書いてあったの、シンポジウムとあって、下にはパネルディスカッションのところに入ってらして。北野先生はリスクコミュニケーションの専門家でもあられて、だから、それが入ったから。

【事務局・木村課長】 ちょっと書き方悪かったですけど。全体の総合司会ということ、北野先生に今回はお願いしているわけでございます。

【北野座長】 パネルのほうも、やるわけですね。そんな、たくさん。

【有田委員】 それと、先ほど前向きにおっしゃったので、回答が出ていると思うんですけど。昨年もパネル展示のところ、やっぱり村田さんが、展示のところがないというか、いわゆるNGOとかNPOのっておっしゃって、それが議事録にも残っているんですけど。今年もないので、単にブースが狭いからというだけのことだったんですか。別に意図はないということですか。

【事務局・木村課長】 今回、限られたスペースを、なるべく、今、できるだけ多くの方ができるように、工夫だけは、しっかりさせていきたいと思っておりますので、細かいところでご注文あれば、ある程度やるようにします。

【北野座長】 そうですね。

ほかに、どうでしょうか。こういう形で、今年度は進めていく予定であるということ、議題が終わった後、また全体の議論をしたいと思っておりますので、ホームページの問題もありますので、取りあえず、この議題については、そういうことで、今、いくつかのアドバイスをいただきましたので、それを考慮に入れながら企画していくということで、ご了解いただきまして、ありがとうございました。

では、次の議題に行きましょうか。次は2つ目、身近な野生生物の観察事業ですね。それについては、環境協会のほうからでしたっけ。お願いします。

【日環協・大西】 平成18年度、それから今年度も引き続き、身近な野生生物の観察事業の事務局を担当させていただいております、財団法人日本環境協会の大西と申します。

まず最初におわびなんですけれども。お配りしていた「資料5-2」に誤りがございました。昨年度の参加団体が付いておりましたので、今、事務局のほうから配っていただきました、新しいものと差し替えをお願いいたします。後からお配りしたほうが、今年度、平成19年度の参加団体の一覧ということになっております。

それでは、事業の概要のほうをご説明させていただきます。順番がちょっと前後して申し訳ないんですが、まず「資料5-3」のほうから、事業の概要ということでご説明していきたいと思っております。

このExtEND2005における身近な野生生物の観察事業についてですけれども。目的としては、以下の3つがございます。まず、一般国民の生態系に関する関心・興味を養うこと。生態系の多様性を学ぶ。最後が、野生生物の異変の把握のためには、継続的な調査、広域的な調査が必要であることを学ぶということで、これらを、実際に野生生物の観察事

業を、子どもを中心にした国民の方々が実際に行うことを通じて、知ってもらおうということですが、

この ExTEND2005 との関連については、「資料 5 - 3」の裏のページのほうをご覧ください。こちらのほうに、ExTEND2005 における本事業の位置付けということで、説明をさせていただきます。

化学物質による環境のリスクについては、人への影響のほかに、生態系への影響もありますということ。この生態系への影響についても、子どもたちや一般市民の方々に知ってもらう必要があるということで、そのために、まず身近にある野生生物をじっくり観察するところから始めましょうということで、スタートしております。

本事業を通じての狙いとしては、生物にはバリエーションがあり、多様で複雑な生態系の中で生物が生きているということ。生物におけるバリエーションの要因としては、化学物質の影響も含め、さまざまな因子が考えられること。この2点を理解をして、化学物質が生態系に与える影響をきちんと考えることができる人を増やしていくということが、本事業の最終的な目的と言えます。

続きまして、「5 - 3」の2. 調査内容のところですが、これは ExTEND2005 と同時にスタートしておりますので、今年が3年目ということになります。参加団体については、以下の条件を満たす団体を対象としております。普段から生き物の観察を行っていること、1番、今年 11 月までの期間に3回以上生き物の観察を行い、その報告ができることという内容です。

昨年度までは、これに、環境省が実施しております、こどもエコクラブに登録をしていることということがあったんですが、今年度からは、先ほど課長のお話にもございましたけれども、対象を少し幅広くするというので、その条件は外して、少し参加できる団体については、門戸を広げるような形になっております。

今年度の調査ですが、先ほど申し上げましたとおり、平成 19 年の 11 月までに、少なくとも3回以上、野生生物の観察調査ができるということとなっております。最終的な報告は、12月の3日が締め切りになっておりまして、この時までには提出の様式に従った形で報告をお願いしているところでございます。

事業全般を通じて、専門家の方々からアドバイスをいただけるということで、そこにお名前を記しております7名の専門の指導員の先生方から、必要に応じて、参加団体についてはアドバイスをいただくことができるようになっております。

戻りまして、「資料 5 - 1」のほうですが、今年度の野生生物の観察事業についてということでございます。今年度の実施スケジュールについては、3番のところに書かれてあるとおりでございます。12月の3日が最終的な報告レポートの提出。その後、1月の下旬に、こどもエコクラブ全国フェスティバルに参加する団体を決めて、3月 29、30日に全国フェスティバルに参加をいただくという形になっております。

この観察を実際に開始するに先立ちまして、8月 24日に観察準備会を開催しております。そちらのほうには、今年度、平成 19 年度に参加を予定している団体、28団体のうちから 20 団体に参加をいただきました。また、専門家の指導員の先生方7名も全員ご出席をいただきまして、非常に盛会であったと。

参加団体のリストについては、先ほど「資料 5 - 2」でお配りしたところでございます。

28 団体が参加をされたということになっております。

「資料 5 - 4」ですけれども、先ほど申し上げました、8 月 24 日に実施された観察準備会の議事録ということになっております。まず、ご参加いただいたクラブの方々から、日ごろの活動についてと、今回、本事業に当たって、どのようなことを予定しているかというようなお話をいただいた後に、質疑応答、それから、委員の先生方から、観察に当たって、どのようなことに注意をして実施をしたらよいかというようなことについて、質問に答える形、また、委員の先生方の経験を踏まえた上で、いろいろとアドバイスをいただいています。

最後に、「資料 5 - 5」になります。「こどもエコクラブ全国フェスティバルについて」ということで、少しご説明を申し上げます。昨年度もそうだったんですけれども、本事業を実施した後に、ご報告をいただいたクラブの中から、昨年度は 3 クラブを選抜をいたしまして、毎年年度末に開かれております、こどもエコクラブ全国フェスティバルへの参加をお願いをしています。昨年度は、神奈川県横須賀市で、3 月の 24、25 の両日行われたんですけれども。全国から選ばれた、こどもエコクラブのメンバーの方々に加えて、この野生生物の観察事業を行ったクラブ、3 クラブが入りまして、それぞれ交流を深めたり、自分たちが行った活動の成果について発表し合ったりという形で交流を深めております。

今年度も、こどもエコクラブ全国フェスティバルが予定をされておまして、来年、平成 20 年の 3 月 29 日、30 日の両日に福岡県の北九州市で開催の予定でございます。今回の全国フェスティバルについては、野生生物の観察事業、今回行った 28 団体のうちから、こどもエコクラブに登録をされている団体になりますけれども、2 クラブを選出しまして、昨年同様派遣をする予定でございます。昨年と同じように、他の全国選抜された、こどもエコクラブの皆さんと交流を深めていただくこと。それから、エコクラブ自体には、この ExTEND2005 野生生物の観察事業に関するブースを出展して、また、著名な方をお招きして講演を実施していただく予定になっております。

野生生物の観察事業に関しては、説明は以上でございます。

【北野座長】 ありがとうございます。このブルーの、これは 18 年度の？

【日環協・大西】 はい。これは昨年度の観察報告書ということになっておまして、表に絵があるほうが、子どもさん向けに書かれてあるものということで、観察に参加いただいたお子さん 1 人 1 人には、これが 1 冊ずつ行き渡るような形になっております。絵がないものについては、これは事業の報告書ということで、お 1 人に 1 つ。

【北野座長】 分かりました。ありがとうございます。

「資料 5 - 1」で、19 年度の観察事業の途中経過ですね。8 月の 24 日でしたか、準備会が行われたということで。その中での質疑が「別添 1」、「2」になっているんですね。

【日環協・大西】 はい。そうです。

【北野座長】 「別添 1」、「2」で、何か特にありますか。どんな意見交換されているかということで、何となく、参加している人たちのレベルが分かるような気がするんですけど。

【日環協・大西】 そうですね。ExTEND2005 に基づくという形で、この事業が書かれてあることで、参加者の方には、そういう化学物質の影響というものに着目したような観察をしなければならないのかといったような問い合わせが、あれしたんですけれども。専

門の指導員の方々からも、まず生態系に対して興味を持ってもらうことが大事だからということで、あまりそこにこだわることなく、自由な視点から観察をしてほしいということで、お願いをしているところでございます。

【北野座長】 そうですか。この子ども向けの報告書には、特に先生のコメントを出しているんですね。これ非常にいいことだなと、私、思ったんですけども。ねえ。先生方もコメントを付けて。ありがとうございました。

そんなところで、19年度も現在継続中ということですが、いかがでしょうか。18年度については、こういう立派な報告書ができているということです。

村田さん、どうぞ。

【村田委員】 この観察事業は、いつまで予定している、終わりは？ 今のところ。発注している？

【環境省・高岡係長】 事業は単年度ごとに行っています。いつまでということは、特に決まっておりません。

【村田委員】 と申しますのは、ご承知のように、2010年に生物多様性条約というのの締約会議が名古屋で開かれます。せっかく、それまでに、例えば2005年から始まって、2009年まで5回続けたとしたら、それなりの蓄積があるので、こういう観点から観察する事業をやってどうだったのかというのは、そういう場できちんと発信してはどうかと思うんですね。

多分、ほかの国でも、必ずしも化学物質というわけじゃないですけど、一応それを念頭に置きながら観察事業をしているという例は、あんまり聞いたことがないので、そういう例は、結果的にどうなったのかは別として、取組をして、どういう蓄積ができたというのは、発信に値する情報じゃないかなと思うので、ご検討の提案です。

【環境省・高岡係長】 ご意見ありがとうございました。

【北野座長】 専門家による環境調査というのは、いろいろあるけど、特に子どもたちが自ら調査をしているというところに意味があるかと思うんですね。そういう意味では、継続することが必要だなと私は思いますけど。今、村田さんおっしゃるように、5年なら5年やっていた成果を、また、そういう生物多様性条約なんかでも、日本の取組ということで発表してもいいかもしれませんね。確かにおっしゃるとおりです。

ほかに、どうでしょうか。非常に長期的なことを言うと、こういうことをやってくれた子どもたちが、将来大学で環境関係の学部に入っているかというのが、そこまで強制しちゃいけないけど、何か、そういうフォローアップみたいのをしてみたい気もしますね。子どもの時の、こういう経験が、その子どもたちの将来の職業選択に多少なり影響してきているのかとか、何かそんな感じもしますけど。生物系の学部へ行っているとか。いろいろ途中で考え変わるかも分からないけど。

【村田委員】 あと、就職次第ですよ。そういう環境を専門で勉強して、さて就職するに当たって、自分の学んだことを生かせる就職口があるかどうかということ。

【北野座長】 そうですね。それは確かに、そのとおりですよ。

何か最近、世の中厳しくなって、何か事業を行うと、必ず評価というのが出てくるわけですね。われわれの事業もそうですけど。評価ということで、こういう事業が、私は意味があると思ってるんだけど、本当に子どもたちに意識が芽生えてくれたりするといいん

だけど。

どうでしょうか、ほかに。どうぞ小黑さん。

【小黑委員】 『ソトコト』は、去年から北京版というのが出ていて、中国の。それで、僕は驚いたんだけど、本当、中国の環境問題に対する関心の高まりは、非常に若い人がです。例えば、ここの参加団体で、北京の、そういう小学生で、こういう先生がいて。子どもたちって、外国のことって非常に関心があるので、北京の、こういう観察をしている人たちが参加したいと言ったら、面倒くさいから困りますかね。そういう案内をしてもいいんですかね、彼らに。

【環境省・高岡係長】 そうですね。一応、今年度の募集は終了しているんですけども。

【小黑委員】 こういう偉い先生が来るのもいいんですけど、子どもたち同士の交流って。随分中国から、今、子どもたちが来てますよね、日本の勉強に。こういう切り口というのは、あんまりなかったので、そういう交流を見てみたいなと思ってたんだけど。今年度間に合わなかったら、まだ村田さんが言うように、11年まで続けるようであれば、おせっかいかもしいないですが、そういう案内をしたいなと思ったんですけど。

【北野座長】 20年度以降可能かどうかは、考えていただけますか。今年度は、もう募集終わって、動いてますのでね。

どうでしょうか。よろしいですか。有田さん、どうぞ。

【有田委員】 いえ。中国の子どもたちに来てもらうんですよ。

【小黑委員】 そうです。

【有田委員】 でも、お金がなかったら。交通費とかが、予算がないかも。

【小黑委員】 いや、『ソトコト』の中国版に、この告知なり、こういう広告を載ければ、募集があるかもしれないと思ったので。

【有田委員】 というか、日本の子どもたちは、募集締め切っているけれども、特別粋みたいな形で、多少交流とかいうのを、企画がまだ固まってないんだったら、何か面白そうだなと思うけど。というのもあって、予算とかも、後ろから余計なことを。行政こそ、言っただけじゃ駄目で。(笑)

【小黑委員】 お金は、中国のほうを持ってますから。あいつらのほうを持ってますから。(笑)

【北野座長】 日本に来ていただいて、日本の子どもたちと一緒に観察をするという。

【小黑委員】 向こうの状況も、今からスタートすれば、環境問題というのは、自国のことだけじゃないですよ。今や、リンクしていることだから、面白いかなと、私は。それが子どもたちに伝われば。

何か雑誌屋としては、毎年毎年同じことをやられても、つまらないんですよ。来年やるのであれば、また何らかの広がりがないと面白くないので。ふと、その辺を。

【北野座長】 はい。1つの提案として、お考えいただければと思います。

よろしいでしょうか。それでは、何か、だいぶ今日は早過ぎちゃうなという感じしてるんだけど。(笑)まあ早い分にはいいでしょう。

最後のテーマに行きたいと思います。ホームページでした。3つ目のテーマ、「内分泌かく乱作用に関するホームページについて」ですね。「資料6」です。じゃあお願いします。

【事務局・安部】 それでは、「資料6」の「化学物質の内分泌かく乱作用に関するホームページについて」、こちらの資料に沿って、ホームページのほうのご説明をさせていただきます。

「平成18年度のホームページの運用・更新実績報告」ということで、ホームページのアクセス状況というのを、サーバーのログのほうから解析しまして、一応統計を私どものほうで出させていただいております。それが、こちらの集計のグラフになっております。グラフのほうは、昨年4月から、今年直近で、ちょっと9月がまだログの解析が終わっていない状態ですので、1月前、8月末までのアクセスの状況ということで、集計させていただいております。ご覧いただきますように、ある程度上下はございますが、月間約2万程度のヒット数というようなページビューの状況にあります。

下のほうに、各年度の集計数を出させていただいておりますが、17年度は年度半ばからということで、15万8816ということになっております。平成18年度のほうが23万2133で、今年度が5カ月で7万4006ということで、現在累計としては46万4955という数字が出ております。

次のページなんですが、昨年の検討会のほうで、ホームページについていろいろご意見をいただいて、それに従いまして、ホームページの構成またはデザインですね、そちらのほうを修正するというので、現在サンプルが準備できているような状況にあります。

ホームページのほうのリニューアルにおける構成の新旧比較ということで、(2)のほうに図1ということで設けさせていただいておりますが、リニューアル前となっておりますが、現在、このホームページ自体が、今、公開されている最中です。リニューアル後のほうのサイトというのは、まだ公開されていない状態にあります。

現在公開されているホームページの主なコンテンツというのが、左側でございますとおり、大きくコンテンツとしては から と9項目に大きく分かれてあると。あと、それ以外に、アンケートと、このホームページに対する、個人情報とか著作権の取り扱いというようなことが書かれていると。

主にメニュー項目としては、こういう9つの項目になっているわけですが、リニューアル後については、コンテンツについては、9つの項目になっていたものを、5つの項目に構成をし直しております。1つは、「内分泌かく乱作用とは」ということで、これは、現在動いているホームページからいうと、「簡単に知りたい」、それと「詳しく知りたい」、この2つの部分を、「内分泌かく乱作用とは」ということで1つにまとめてございます。

次に「取組紹介」ということで、こちらのほうは、現在のホームページですと、「国内での取組」、「環境省の取組」、「国際的な取組」という3項目について、「取組紹介」ということで1つにまとめさせていただいております。

次に「国際シンポジウム」、これは、従前どおり1つの項目として挙げさせていただいております。

もう1つ資料集ということで、これも同じくリンクを含めた形で、「資料集・リンク」という形で1項目にさせていただきました。

現在ですと、「コラム・エッセー」と「対談・インタビュー」という2つに分かれていたものが「対談・コラム」ということで、これを1つにまとめて紹介させていただいております。

最後に、このホームページがどういうものであるかということの説明を併せて、その中に、アンケートとか意見募集も含めて1つにまとめたということで、リニューアルの現在のアイデアとしては、6項目の中にすべてを入れ込む形で再構成したような流れになっております。

具体的なデザインはどのようなものかといいますと、今、こちらの資料がございますし、現在、こちらのプロジェクターのほうでもご覧いただけるようになってはいるわけですが、1番上のほうにタイトルがございます。タイトルの下に「化学物質の内分泌かく乱作用に関する情報提供サイト」ということでサブタイトルを設けて、このページの名称を掲げていると。

こちらの図柄のところなんです、ここが通常「アイキャッチ」と言われる部分に相当いたしますが、ここに「内分泌かく乱作用とは」という、このホームページ自体が紹介しようとしている主な内容について掲げさせていただいています。それぞれ、かく乱作用についてのいろんな問い掛けに対する部分というものを、カーソルを置いていただくと、こちらの左のほうの丸い画面のところ、その簡単な説明が出たり、そこからまた各ページに、紹介のページに行くような形で、フラッシュを使った動きのある形にしています。ここ自体も、いったんちょっと、このページを、別の項目に入って、いったんトップページに戻ると、これ、開いたイメージに、少し、この辺りが、やはりフラッシュで動きがあるような形で、現在作っております。

こちらのメニューバーなんです、「グローバルメニュー」と言われるんですが、どのページに行っても、この各項目、この5項目については必ず表示できる形にして、利用者の利便性を図るということで、グローバルメニューの項目になっております。メインのメニューになります。

右側の、今回、あまり前回のページではなかったんですけども、「ピックアップコンテンツ」ということで、最新の情報というものを、なるべくここに、その都度さわりの部分を挙げていくというような欄にしています。

本体のほうの、この下のほうに行きますと、まず「トピックス」ということで、やはり同じく、新しく掲載された情報なんかトピックスに載るような形になっています。

次に「関連ニュース」ということで、国内と海外という2項目に分けて、月に2、3件ずつ、こちらのほうに関係のある情報を載せていく予定で準備をしております。主にどういう情報を載せるかと申しますと、国内については、各政府機関、関係省庁の毎日の報道発表資料の中から化学物質に関係あるものを、ある程度ピックアップして、それが、私どもで運用している「E I C ネット」というところで載せているんですが、そちらのほうからピックアップして、こちらの国内ニュースに載せていくと。

同じく海外の部分なんです、これが、私どものほうで、2週間に1度、海外の主な政府機関、主に主要先進国なんです、そちらの行政情報というものを、簡単な翻訳をして情報を出させていただいているんですが、そういった中に、化学物質に関係あるもの、環境ホルモン等に関係ありそうなものをピックアップして載せてみようということで、欄として設けております。

トップページはこういった構成で、ある程度全体の、このページの意味する部分というのが、なるべく分かりやすいような形に見えるような形の構成にさせていただいたという

ふうな考え方にさせていただいています。

資料で行きますと、次、図3になります。この各、主な5つの項目のページの、それぞれトップページを掲げさせていただいています。各トップページの部分には、右端にサブメニューということで、各2階層目以降の主な項目を、それぞれのメニューごとに掲げさせていただいています。

ちょっと分かりにくいんですが、メニューバーの下側に、今、自分がどこにいるかというのが、ある程度分かるような表示がされるようになっております。これは、俗に「ぱんくず」と言いまして、ある程度自分が、今どのページにいるかとか、もしくは、検索なんかで飛んできたときに、このページはどういう位置付けのところにあるかとかいうものが見える、イメージできるようなところということで、こういった「ぱんくず表記」ということを設けております。

あと、コーナタイトル、それに、それぞれコンテンツ自体の中身ということで並べさせていただいています。それぞれ「取組紹介」、「国際シンポジウム」、「資料集・リンク」、「対談・コラム」ということで、主な5つの項目について、こういう形で見られるようになっています。

それ以外に、このホームページがどういうものであるかということが、この「Official ED Website について」ということで、こちらのほうに1とおり取りまとめて掲げさせていただいています。

一応、今、昨年の検討会のご議論を受けまして、ホームページのデザイン・構成の変更ということで、こういったページを準備しております。

続きまして、「資料6-1」の5ページ目になりますが、昨年9月以降ですか、それから直近で6月までですが、「アンケート・意見募集の状況」ということで、取りあえず少ないんですが、集計結果を掲げさせていただいております。有効回答数というのは9件。性別は、男性が3、女性が5で、不明が1ということになっております。年齢は、10代が5、40代が1、50代が2、60代が1という状態です。職業のほうですが、研究者が1、会社員が1、自営業で、その他1、学生が4、主婦が1、無職1ということになっております。地域のほうは、北海道・東北が2、首都圏が2、関東甲信越が4、東海北陸が1ということなんです。

「このホームページで知りたかったのはどんなことですか？」という複数選択が可の項目で頂いた部分といたしましては、まず「野生・生物生態系への影響」が一番多ございました。次が「人健康への影響」、その次に「リスクコミュニケーション」というような流れになっております。あと、若干それぞれ、やはり幅広い項目にわたって、知りたいということを選ばれております。

次に、どの項目が、このホームページで分かりやすかったかということなんです。やはり「簡単に知りたい」ということは、ある程度分かりやすく書かれているということもあるかと思うんですが、そちらの項目が6、「コラム・エッセー」が4、「詳しく知りたい」が3、「国内の取組」が2、「対談・インタビュー」が1ということになっております。

「このホームページのどの項目が分かりにくかったですか？」というのは、「分かりやすかったか」の、やや反対のところになるかと思うんですが、「詳しく知りたい」とか「国

際的な取組」、「国際シンポジウム情報」、「資料集」、こういったところが分かりにくかったとチェックされておりました。

「このホームページのどの項目が勉強になった、もしくは役に立ちましたか？」という部分では、「簡単に知りたい」、「詳しく知りたい」、「国内での取組」、こういったものが多ございました。

全般的な評価としては、「面白かった・興味が持てた」ということで、あと「勉強になった・役立った」ということで、好意的な評価という形でいただいております。アンケートもしくは意見募集の状況は、こういった内容でございました。

先ほどご説明申し上げました、ホームページのリニューアルに合わせて、各コンテンツの項目について順次更新をしていこうという予定にしております。こちらのほう、更新の予定なんですけど、6ページ目の2.の「今後の予定について」ということで、(1)更新の予定ですが、まず「対談・コラム」、こちらの入稿済み、もう既に原稿を頂いている、原稿執筆者は以下のとおりとなっております。コラムは青山さん、さかなクン、佐藤さんという3名の方に既に原稿を頂いております。小出さん安井さんの部分の対談の後半部分というのにも既に中身を確認いただいて準備ができるようなところにきております。

埼玉で開かれる今年度の国際シンポジウムの情報、こちらのほうの開催案内・結果情報というのは掲載していく予定にしております。

先ほどご説明を差し上げましたが、国内・海外ニュースに関する、健康とか化学物質にかかわるニュースというものをピックアップをして、リンクを張った上で掲載していく予定にしております。

そのほか、「資料・リンク」につきましては、必要な資料もしくはリンク先等を随時掲載する予定で準備しております。

前回も検討会のほうでご確認をいただいているところなんですけど、こちらの情報、特に「コラム・エッセー」なんかの原稿を掲載するに当たっての方針といたしましては、こちらの検討部会の委員のご本人、もしくは、ExTEND2005の事業にかかわる委員、もしくは、本検討部会の推薦者からの寄稿等を原則掲載していきましょと。事務局に対して、上記のいずれでもない方からの寄稿の申し出があった場合は、掲載の可否をメール等で検討部会の委員の方に諮るといような考え方で進めさせていただければと思っております。

原稿の量としましては、A4で1枚程度ということで、400字詰め原稿用紙にすると4枚程度の分量ということで、ご依頼をするというようなことで、予定をいたしております。

次に「資料6-2」ですが、こちらは、このホームページをリニューアルした上で、公開のタイミングに当たりまして、環境省の報道発表資料として、こういった内容で、今ご紹介したような主なコンテンツの内容等を含めまして、掲載した上でリリースさせていただくというような予定になっております。以上、事務局のほうから報告を終わります。

【北野座長】 ありがとうございます。ホームページのリニューアルの方向と、それからアンケート結果、そして、今後どういうことが掲載されてくるかという3つの方向についてのお話いただきました。質問なりご意見ありましたら、またいただきたいと思います。有田さん、どうぞ。

【有田委員】 参考文献が『チビコト』だけになってるんですけど。

【北野座長】 何ページですか。

【有田委員】 2ページの「資料集・リンク」です。参考文献は、ほかにはないんですか。
(笑) いや、どういう選び方というか。

【北野座長】 これ、まだどんどん追加されるんでしょう？ ここは。

【事務局・安部】 はい。その予定で。

【北野座長】 取りあえず例として。

【有田委員】 あ、例だけなんですか。

【北野座長】 そうでしょう？ ね？

【事務局・安部】 はい、そうです。

【内山委員】 更新、いわゆるアクセス集計等を見て、ほかのところは、これほど詳しく出てないので分からないんですが、大体見ると、夏休み前半と、それから冬休みには増えて、それで、あと、どんと減って。それからアンケートに答えた方も、10代がまあ、サンプル少ないんだけど、10代ということで、で、簡単なところを知りたいというのが一番ですよね、役に立ったということは。結構、小中の高学年が見ているんじゃないかと思うんですよ。

それで、ホームページを拝見すると、いわゆるキッズ用がないんです。ですから、もう少し中・高校生用とか、小学校高学年用とかいうところがあると、非常に役に。

これはアクセス数ですから、見て、あんまり難し過ぎて分かんないやと切ってしまっても、アクセス数にはカウントされているわけですよ。見ると、8月になると、もうがくんと下がるということは、夏休みの宿題や何かやりたいなと思って、いろんなところを見るんじゃないかなという気がするんですけどね。少し、そこら辺にターゲットを当てた面もあっていいかなと思う気がいたしますし、資料も。

【北野座長】 入門編のところを、少しその辺、小中学生。

【内山委員】 そうですね。こんなのも載せていいと思うんですね。一番実際に子どもたちがやっている、環境、分泌かく乱と関係のあるようなところは載せてあげてもいいんじゃないかなという気もします。そうすると、仲間が、こんなことやってるんだと思って。

【北野座長】 そうですね。はい。よろしいでしょうか。入門編のところ、少しその辺のターゲットを考えながら記述いただくと。それから、この野生生物の調査なんかの活動も載せていただいたらどうだろうかということです。ありがとうございました。

村田さん、どうぞ。

【村田委員】 ホームページの最近の更新日月というのは、いつぐらいなんですか。私が、ずっと見ている範囲では、全然1年近く何も更新されたあれがなくて。このアクセス数を見て驚いたんですが、多分これ、リピーターがのぞいて、変わってないかどうかというのでもカウントされますよね。

でも、それにしても、ものすごく時間をかけなきゃできないことも、もちろんあると思います。私、素人のイメージだと、ニュースを載せるとか、そういう簡単なことは、そんなに難しいことじゃないのかなと思ってたんですが。そこまで長引いた理由というのは、どこにあるんでしょうか。

【環境省・高岡係長】 申し訳ありません。リニューアルのページの準備をしておりましたので、ニュースの掲載もリニューアルのページで掲載させることができるようにということで準備しております。ちょっと時間がかかってしまったこと、大変申し訳ないと考え

ております。

【北野座長】 今後は関連ニュースなんか載ってくるわけですから、できるだけ更新を。そのところだけ変えるのは簡単なんでしょう？ 恐らく。その辺、アップデートしていただくというのが必要かなと思いますけどね。確かにね。

【脇森委員】 国際的なことって、確かずっと工事中だったと思うんですけど。今後は、入ってきますか。

【環境省・高岡係長】 原稿を、今、用意しているところでして。EPAの取組ですとかEUの取組、そういったことを掲載していこうと考えております。

【北野座長】 ほかにどうでしょうか。

【間正委員】 リニューアルのページが公開されるのは、いつぐらいになりますでしょうか。

【環境省・高岡係長】 次回、親検討会を開催する時に、もう1度お話ししたいと考えておりますので、リニューアルホームページの公開は親検討会後になるかと思われます。

【間正委員】 私が気になっているのは、今までの積み重ねてきたものが、このページで見られるというのもいいんですが。これから先のことというのは、すぐに発表されなければいけないこともあると思うんです。私だと、ここの検討会に参加させていただいているので、国際シンポジウムの日取りであるとかは把握していますけれど、まだ一般の人は知らないわけで、そういうものは早く、日取りとか場所だけでも分かった段階で情報を出していくと、予定も立てやすいし。それは、海外からお客さんを呼ぶのであるから、英語の情報も同時に載せていただくと、こちらでも宣伝がしやすい、いろんな人に声を掛けやすいというのがありますので、ご配慮いただければと思います。

【北野座長】 ありがとうございます。よろしいですか。ほかにどうでしょうか。

【村田委員】 コラムの執筆者に関して、確か去年、日科協の小倉さんが、「ためしてガッテン！」に関してお書きになりましたね。それに対して、じゃあNHK側はどう考えているのか、NHK側の意見も聞いてみては？ ということで、何かメールでやり取りがあったと思うんですが。その後どうなったのか、全然お話、私は少なくとも聞いてなくて。結局、それはどうなったんでしょうか。

【環境省・高岡係長】 申し訳ありません。その「ためしてガッテン！」の担当が飯野氏であると伺っています。NHKの飯野氏とやり取りをさせていただいているのですけれども、まだ現在なお調整中です。

【北野座長】 しょうがないというかね。（笑）

【村田委員】 1年ぐらいかかるんですかね、調整が。

【北野座長】 だから、本人があまり書きたくないんじゃないですか。あんまりこんなこと言っちゃいけないけど。

【青山委員】 実際は、村松さんというディレクターなんですよ。飯野さんは現場の担当者であって、実際は村松さんという方が全体の指揮をやっていたので。私も電話を村松さんにしたんです、飯野さんじゃなく。

【村田委員】 まさに、こういう、小倉さんのコメントが出て、それに対してNHKが出たといったら、みんな興味を持って見るし、ああ、こういう見方もあるんだなということで、まさに、ここで狙っているリスコミの場になると思うんですけど。今でも一方的な話

だけしか載せてないので、邪推する人によっては、あえて載せないのかなって思う人もいるかもしれませんね。

【環境省・高岡係長】 こちらからは執筆について打診を行っているんですけども、ちょっとまだご返事いただけていない状況で。

【有田委員】 そういうことも出せないんですかね。（笑）

【北野座長】 そこはねえ。またねえ。

【有田委員】 でも、文章にすると誤解されるけど、あるじゃないですか、画面で、こう動いた、話すのが見えるとか、そうすると、多少文章にすると、何となく誤解されるけれども、こういうことぐらいだったら話せますということ。

【北野座長】 せいぜい書くとすれば、「多くの方々のご意見を期待しております」ぐらいの書き方しかできないでしょうね。「何とかさんをお願いしてますけど、拒否されています」なんて書くわけいかなから。（笑）

【有田委員】 打診中とか。

【北野座長】 打診中も、ちょっとね。ありますんで。この「コラム・エッセー」について、多くの方々のご意見をお待ちしておりますぐらいのことを書いておけば、またいかがかと思うんですね。それについて、また必要であれば、この委員会で皆さんのご承諾をいただいた上で、掲載するということです。

私も、できるだけ多くの方が、いろんな立場からいろんな考え方を出していただくのが、いいのかなと思っているわけですね。

どうでしょうか。リニューアルされて、だいぶ、また分かりやすく、見やすくなったかなと思います。これで、今日予定した国際シンポジウムと野生生物の観察事業とホームページのリニューアル、3つの議題を終わったんですが。全体を通して、この後、また親委員会がありまして、親委員会の、またご報告あるんですが。全体を通して、ご意見ありましたら。村田さん、どうぞ。

【村田委員】 先ほど内山先生がおっしゃったことを、私、大賛成なんですけど。これ、キッズページみたいなところがないですよ。このリニューアルのページの印象は、大人から見ると、何かきれいにできてるなというイメージありますけど。意外とキッズページというのは、大人も見ると。というのは、ある程度知識がないと、ここまで中に入っていかうという気になる人って、一般の人では限られちゃうと思うんです。ここでキッズページがあると、一般の主婦みたいな人も、じゃあどんなことかなって見る、その本当の入り口としてね。

ページのイメージが、これだと、多分、何か固いつていうか。

【有田委員】 おしゃれですけどね。

【村田委員】 ねえ。だから、これを補完するようなページを、ぜひ、あったらいいと思うんですけど。予算のこともあるでしょうし。ただ、取りあえずは、できる範囲でやっていただいたら、またヒット数がかなり上がるんじゃないかなと思います。

【内山委員】 指導をする側の先生も、なかなかこれを全部理解するの大変なんです。だから、子どもが、こんな疑問を持ってるんだという、それに、どうやって答えたらいいだろうぐらいなのは、あってもいいような気がするんですね。

ですから、こういう観察や何かで出てきたQ & Aが、ここには出てましたね。そういう

のは、どんどん。先生方とか、それからNPOでも指導される方が、どんな答えをしたらいいのかというのが、得られる情報っていうのは、なかなかないんです。

あの中から全部読み取って、子どもたちにはこういうところだけ伝えようという部分の、相当実力のあると言っては失礼だけれども、勉強されている先生は、それで分かるんですけども。難しいですよ。

子どもが、こんな疑問を持って、こういうふうに答えてれば子どもは分かるんだという、そういう少しヒントになるようなのがあると、非常に助かります。

【北野座長】 そうですね。予算とか時間の制限もあるので、できるだけ今の先生方のご要望を、また入れていただく形を考えていただければと思うんですが。絶対やれとは、立場上なかなか言いづらいところありますので。

キッズページを作るとすれば、かなを振らないといけないでしょうね。ルビを振らないといけないのかなと思ったりしますけどね。そうすると、いろいろと、また大変なのかなと思うんです。確かに、何とかアクセス数を増やしたいということであれば、きちんと更新をしていくということと、そういうターゲットをはっきり絞った形で情報を載せていくというのが、もちろん必要だと思いますので。ぜひ、今度のリニューアルに間に合わないにしても、次以降、その辺を踏まえて考えていただきたいということで、ぜひ記録に残しておいてください。もちろんできる範囲で、今年度はやっていただきたいということはあるんですが。

どうでしょうか。

【青山委員】 1つは、他の省庁でも同じようなホームページを作られているのは、なるべく連携してやったらいいのかなと。厚生労働省なんかも、ホームページ、内分泌かく乱物質のホームページを作られたりなんかしているので。お互いに、その特徴が出るようなホームページを作られたらいいのかなと。それから連携したらいいのかなと思います。

もう1つは、特に地方自治体なんですけど、ExTEND2005の情報じゃなくて、SPEED '98の情報はまだ残っているようなんですね。説明をしているところがありますので、われわれも気が付いたら、環境省さんのほうにも申し上げているんですけども。そういう点で、正しい現在の情報を、なるべく伝えていくようにやっていただければと思います。われわれも、気が付いたらご連絡したいと思っております。

【北野座長】 あと、「資料6-2」に、環境省から、こういった形でお知らせをするということで、このホームページの位置付け等を書いてあるんですが。何か、これについても、こういう形でよろしいですか。よろしいでしょうか。村田さん、どうぞ。

【村田委員】 こういう訪問した人のアンケートというのは、非常にいろんな面で参考になると思うんですが。この9件というのを、やっぱり、これだけだと、ちょっと参考にも。まあ、ないよりはましなんですけど。だから、これ何か工夫しないと、今後も、ただアンケートをお願いしますというだけだと、そんなに増えないと思うんですよ。ですから、何かインセンティブを考えると、その辺の工夫をしないと、ちょっと無理じゃないですかね。参考になるほどの回答をもらうには。

【小黒委員】 かばうわけじゃないんですけど、僕たちも、よくこういうアンケート調査やるんですよ。ところが、こうやってネットでアンケートする人って、物もらうのに慣れてるんですよ。くれないものには、なかなかアンケートしてくれないんですよ。

【村田委員】 そうしたら、物を上げてもいいじゃないんですか、それは。予算を掛けてね。

【小黒委員】 多分、品格が崩れると思ってるんじゃないですか。（笑）あれも、難し過ぎますもんね、僕たちから見たらね。

【村田委員】 やっぱり難しいと思いますよね、今の人たちから見ると。

【小黒委員】 本来は、もうちょっと易しく伝えたいというので、環境ホルモンをもっと分かりやすくというためにやっているんだと思うんだけど。いつまでたっても、何か学者の世界というか、僕たちから見たら難しいなど。だから、来年も同じような形でやるんだらば、つまらないなと思いますね。もうちょっと何か一般の人に。一番興味があるのは、多分子どもを産む主婦じゃないですか。相変わらず、心配で見ているのは、その人たちに対する配慮が。僕たちは商売でやっているから、あの画面じゃあやっぱりまずいですよね。

でも、そういうつもりで作ってないんじゃないですか。ちゃんと、こうやって、シンポジウムやる時も学術的なところから入っちゃってますからね。根本的な問題か、それとも、そうやってキッズページで本当に分けるのか。

【村田委員】 潜在的に、こういう情報を必要としている人は、かなり幅広いと思うんですよ。

【小黒委員】 と思います、僕。学者だけじゃないと思います。

【村田委員】 今の作りだと、かなり上の特定の層しか、ちょっと難しいかなという印象があるので。

【小黒委員】 興味がある人だけですよ。

【村田委員】 もうちょっと下の部分への配慮があると、より、このあれが生きるのかなと思うんですね。

【小黒委員】 そうですね。はたから見ると、上と下だけがあって、大事な真ん中のところがリーチできてないという、そういうふうに僕は思いますけど。

【北野座長】 表現の問題なんですかね。科学的な事実とか、そこは絶対譲ってはいけないわけで、そこはきちんと踏まえた上で、いかに易しく分かりやすく表現するかという話になってくるんですけどね。

「環境ホルモン大丈夫？」なんて、つければいいのか分かんないけど。ちょっとね。ううん。何か子どもさんにも分かりやすく書いてありますよみたいなことが、どこかで最初に出てくるといいのかなと思うんですけど。

【村田委員】 むしろ吉川先生にお伺いしたいんですけど。難しいことを分かりやすい言葉に言い換えるということじゃなくて、もうちょっと違った、市民側の関心から入れるような書き方じゃないかなと思うんですけど。どうなんでしょうか。

【吉川委員】 それは、考え方だと思うんですね。今からやり変えるのは大変なので。

【村田委員】 そこまでは。

【吉川委員】 多分、今の現状だと、そのキッズページうんぬんで解決できる感じは、ちょっとしない。

【有田委員】 アンケートの何かも、吉川先生のほうにアイデアを出していただいたら、物がなくても。（笑）

【吉川委員】 やっぱりネガティブなことは書かないと思うんですよ。だから、見ただけで去る人のことを考えなきゃいけないと思うんですけど。それは、これでも拾えないです。サイトがフレンドリーでなければ、ネガティブな意見は拾えないかなと思います。

【北野座長】 来年度以降、予算の問題ももちろん絡んでくるんですけど。今までのご意見を伺っていると、2つ作るのかなと。いわゆる専門的に科学的な事実を重視したホームページと、子どもなり、そういうキッズページで、分かりやすいということを重視したホームページという2本立てにせざるを得ないのかななんていう気も。

【有田委員】 入門編のところ、そういうふうに何か入りやすいとか、こっちに先に入ろうというような感じのページにならないですかね。

【北野座長】 そうですね。

【吉川委員】 多分、これはウェブサイトを作られる専門業者さんのほうが詳しいと思いますけど。基本は、分かりやすいが先だと思うんですよ。だから、キッズサイトも、確かに、ふりがなの問題とかもあるんですけど、大人は、多少分かりにくくても付いていってくれると思うんですけど。子どものサイトの作りは、手が抜けないと思います。だから、そっちのほうが結構大変で、消費者としては、そっちのほうが怖いんじゃないかなと、私は思いますけど。生なかのものを作って、子どもに駄目と思われるほうが、後が怖いんじゃないかなと思うんですけど。(笑)難しいと思いますね、これは。

【青山委員】 吉川先生が、厚生労働省の関係で、主婦向けのパンフレットを確か作られてたと思うんですけど。

【吉川委員】 ああ、以前、はい。

【青山委員】 ああいうような、キッズだけじゃなくて、主婦を対象にした、そういうホームページも作られたらいいんじゃないかなと思うんですけど。ああいうのは。

【吉川委員】 は、もうネットで引けるので。

【間正委員】 最初から子どもをターゲットにするというよりも、例えば、先生方であるとか親とかが使いやすいような資料をもっと載せてよろしいんじゃないかと思うんですね。例えば、さっきも話が出ていましたけれど、こういうものがあるんだったら、これがページから取れるって。それを取るためには、そのときにアンケートに答えなければいけないとか。

あと、先ほど有田さんのほうからお話が、ちょっと。ビデオクリップみたいなことのご示唆がありましたけれど。例えば、国際シンポジウムで一般向けのセッションを今までやってきた中で、作られたビデオクリップを使うというのは、著作権の問題とかいろいろあるのかもしれないけれども。対談とかでも、これはもう、書いてもらうよりは、お話をしてもらうというほうが楽だというのは、確かにあるのかもしれないというふうに思いますし。今までにあるもので利用できるものも、かなりあるのではないかなと。それは、すぐに子ども向けではなくても、例えば、授業の中で使いやすい絵であったり、使いやすい冊子であったりなどというものがあれば、これは興味を持って、もっとアクセスしてもらえし、それが欲しいと思ったら、アンケートに答えなければいけないというようなことがあれば、もっとたくさんの意見をもらえるんじゃないかと思います。

それと、例えば相談室のようなものがあってもいいのではないかと思うんですよ。答えが全部ページに書いてあるのではなくて、これが分かりませんと言ったら、じゃあ専門家

の委員会でちゃんとした答えをお出ししましょうみたいな、そういうやり取りのできる場所があっても楽しいのではないか。お互いに勉強になると思いますが。いろいろ工夫ができると思います。

【北野座長】 ありがとうございます。今、いろいろ意見いただきましたので、ぜひそこを記録にとどめていただいて、次のホームページのリニューアルの時期もあると思いますので、その時に、ぜひ今日出たご意見を参考にさせていただきたいということで、お願いいたします。よろしいでしょうか。

【有田委員】 このアンケートが分かりにくいところが、聞いているのが、ホームページで知りたかったこととか、項目とかなんですよね。どれが分かりにくかったか。説明の中身ですよね。何か大きな枠でしか聞いてないので、それを、ちょっと表現をもっとこういうふうに説明されないと分からないというようなこととかも、聞いてもらいたいなと思います。

【北野座長】 そうですね。はい。分かりました。ありがとうございます。

一応これで議題2から3が終わります。あと4つ目「その他」があるんですが。事務局から何か用意していますでしょうか。

【事務局・安部】 それでは、こちらのほう、次回の開催についてだけ、ちょっとご説明をさせていただければと思っております。本年度、もう1度、検討部会をやる予定にいたしております。今年度の事業の成果のご報告ということで、年度末、1月から3月ごろの開催を予定しておりますので、日程はあらためて調整させていただければと思っております。そういうことで、よろしく願いますということ。

【北野座長】 はい。年度内にもう1回あることで、また日程は別途調整させていただきたいということです。じゃあ、あとよろしいでしょうか。それでは、これで終わりにします。どうもご協力ありがとうございました。